

## 市町村指定文化財取材票 &lt;表&gt;

取材日	2023年	5月	25日	(記入者) 本井良明	
取材参加者	石井	小西	茶谷	中川	西田
	西野	宮本			
取材対象先	奈良市：金龍寺の地蔵菩薩半跏像				

所在地	奈良市都祁馬場町449番地				
所有者(取材 対応者)名	金龍寺 ***長老 (個人情報守秘)		連絡先 ***		
			PCアドレス ***		
取材申込	申込先・行政名など：金龍寺				
市町村 指定文化財	彫刻	1 軀	地蔵菩薩半跏像＝1970(昭和45)年3月7日(旧都祁村指定)		
	建造物	棟	名称(指定年月日)		
文化財指定理由	地蔵菩薩像の中でも珍しい半跏の像で、座高は約50cm、檜の寄木造である。本像の制作時期は不詳だが鎌倉以前の古いものと思われ、無補修のまま保存されている。				
<b>文化財の状況</b>					
防火対策	設備・対策・点検・通知方法など			記入者の感想	
	消防署の指導により消火器を本堂2台、不動堂1台に配置しており、定期的に消防署が点検している。有事の際には本堂付近まで消防車が入り、庫裏の横にある消火栓にホースを差し込み消火活動を行う。本寺の後背の山中には貯水タンクが設置されている。			貯水タンクは本寺だけでなく地域の水源として上水道としても利用されており、地域一体となった水利対策が構築されていることに感心した。	
獣害対策	被害の有無、対策など			記入者の感想	
	アライグマは川沿いにいるが寺には来ない。猪、鹿がくるが、本堂等に被害はない。			特になし	
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	創建時から1937(昭和12)年までは現在の本堂の隣に茅葺の本堂が建っていたが、老朽化が進んだため、長老の父池田圭中師と元・元興寺の住職だった水野圭眞師が中心となり地元住民の協力を得て、山を崩して境内を拡張して現本堂を建てた。その後、***長老が自己資金や寄付で本堂を改修し(2018(平成30)年12月15日竣工)、壁、柱、床などを修理、補強し、雨漏りも直した。檀家も減ってきており、今後の維持・管理に係る費用の資金面で不安があるようであった。				
<b>取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)</b>					
父圭中師の後を継いだ***長老が、長年、本殿、不動堂を維持・管理し、素晴らしい仏像を守ってこられたことに敬意を表す。本堂の掃除や庭の草刈りなどの維持・管理を長老夫婦で行っていると聞き、さらに感銘を受けた。長老は、庭に咲く花々(水芭蕉、オオヤマレンゲ、スズランなど)を大切にされており、仏像にもそういったお気持ちをもって接しておられるのだろうと思った。現在(取材時)の住職は、東大寺二月堂の「お水取り」で堂司を務められた息子の圭誠師であり、今後も継続して東大寺でお勤めされると聞いた。奈良国立博物館に寄託中の重文・木造菩薩立像(伝聖観音菩薩像)の保管場所設置の資金がないことを残念に思われていた。					

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2023年	5月	25日	(記入者) 本井良明	
取材参加者	石井	小西	茶谷	中川	西田
	西野	宮本			
取材対象先	奈良市：金龍寺の地蔵菩薩半跏像				

《写真撮影許可済》

文化財指定名 地蔵菩薩半跏像

文化財 (正面写真)	文化財 (角度を変えて、写真)
	

文化財 (安置状態の全体写真)

		
十一面観世音菩薩立像 (上部)		奈良国立博物館寄託中の重文・聖観世音菩薩立像の代替の仏像 (江戸時代)

文化財の由緒などを記入

山田道安が一寺を建立した際に、本尊の「地蔵菩薩半跏像」、脇仏の「十一面観世音菩薩立像」、秘仏の「聖観世音菩薩立像」の3軀を本堂に安置した。地蔵菩薩半跏像及び十一面観世音菩薩立像は鎌倉以前の古い仏像で、聖観世音菩薩立像は重文指定の飛鳥仏であり、現在奈良国立博物館に寄託しているため、代替の仏像(江戸時代)が安置されている。

所有社寺や地域(廃寺等)の歴史や特徴を記入

1481(文明13)年に山田道安(戦火で焼け落ちた東大寺大仏の補修を行った)が山田氏の山城の西方に一寺を建立したのが寺の起こりである。江戸時代には無住となり荒廃したが、仏像は一般の信仰を集め護持された。1935(昭和10)年に本寺に入った元・元興寺住職の水野圭眞師が、その荒廃を嘆き山を削り境内を拡張して本堂を新築した。山を削ったため本堂が上段に内陣、下段に外陣の2段となり、上段の内陣に3仏像が安置されている。